

製品・サービス動向-国内

■ Poly：マイクロソフト社とレノボ社との
パートナーシップにより「Microsoft Teams」
対応製品をさらに拡充

(PRTIMES: 5月26日)

ポリコム ジャパン 株式会社
(<https://www.poly.com/jp/ja>) (Poly) (東京都新宿区) は、マイクロソフト社、レノボ社とのパートナーシップにより、「Microsoft Teams」環境の会議エクスペリエンスを飛躍的に向上するビデオ会議・音声会議製品の販売を開始した。



「Lenovo ThinkSmart Hub 500」と、Microsoft 認定 USB デバイスである「Poly Studio」を組み合わせた新たなソリューション (Poly)

新たなソリューションは、コンパクトな一体型で定評のある「Lenovo ThinkSmart Hub 500」と、Microsoft 認定 USB デバイスである「Poly Studio」を組み合わせたもの。これにより、これまで以上の会議の臨場感を Microsoft Teams 環境で体験できるようになったという。

また、Microsoft Teams にネイティブ対応した、「Poly Studio X ファミリー」「Poly CCX シリーズ」「Voyager

Office シリーズ」「Calisto 3200」など、ビデオ会議、音声会議、電話機、ヘッドセットなどのラインナップも拡充した。

Poly は、今後も Microsoft Teams に対応した、個人向けの製品や、Microsoft Teams にネイティブに対応したデスクトップ電話機、ハドルスペースから大規模会議室まで、オフィスのあらゆる環境に対応可能な幅広いビデオ会議製品の提供を順次開始していくとしている。

■ ギンガシステム：自社ネットワークで安心して利用できるテレビ会議ソリューションの提供を開始

(5月18日)

ギンガシステム株式会社 (<https://ginga-sys.jp/>) (東京都渋谷区) は、同社が提供する簡単テレビ会議システム「LoopGate (ループゲイト)」について、高いセキュリティ性を求める企業や団体向けに、自社ネットワーク内で安心して利用できるテレビ会議ソリューションの提供を開始する。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、企業ではテレワークや遠隔会議の導入が進むものの、インターネットを経由して行われるテレワーク・遠隔会議において、セキュリティに懸念を感じる企業からは、既設の自社ネットワーク内で使用したいとの要望が同社に対して数多く来ているという。

ギンガシステムでは、金融機関や大学病院、自治体ネットワークなどこれまでこのような要望に個別に対応してきたが、LoopGate を VPN (Virtual Private Network) などの閉域網で使用できるよう、オンプレミス形式のソリューション提供をこの度開始することに

した。

同社では、オンプレミス形式でのテレビ会議システムの構成を提案し、引き続き、導入の障壁を取り払い、事業継続のための企業活動を応援するとしている。

LoopGate は、フル HD 画質に音楽 CD と同等のクリアな音質を提供しており、23 年の経験を活かした専用機ならではの安定性がある。また通信は米国政府や米軍で使用されている AES 暗号方式を採用している。操作もボタン一押しですぐにつながるワンタッチ操作が特徴となっている。

ギンガシステムは、1997 年にテレビ会議システム専門メーカーとして事業を開始。これまで 2,400 社以上の法人での利用のほか、語学教室などの BtoC サービスでの実績もある。

■ ADDIX : Web 会議効率化ツール「WorkStyleRecorder」を二つの機能に分け、利用しやすい料金プランでリニューアル

(5月20日)

株式会社 ADDIX (<https://addix.co.jp/>) (東京都千代田区) は、同社が提供する Web 会議効率化ツール「WorkStyleRecorder(ワークスタイルレコーダー)」について、導入企業のこれまでの声を基に、機能別や料金においてリニューアルを実施し、より導入しやすいサービスにした。

文字起こしに特化した「WorkStyleRecorder」と、リアルタイムに発話内容を翻訳表示できる「WorkStyleRecorder Plus」を提供する。

まず、WorkStyleRecorder は、Web 会議をリアルタイムでテキスト化し、Web 会議の発話内容をリアルタイムで文字起こしして共有できるツール。

より導入しやすくするため、初期費用を止め、月額 15,000 円から利用可能とした。「Microsoft Teams」「Skype for Business」「Zoom」「Cisco Webex」など

に対応し、複数人会議でも使用ができる。また、リアルタイムで文字起こしされるため、会議中に聞き取りにくい箇所があった場合でも、その場でテキスト確認が行えるようになっている。Web 会議に限定せず通常の会議でも有効という。

もうひとつの WorkStyleRecorder Plus は、40 言語の音声認識、68 言語の翻訳に対応しており、翻訳機能を搭載しているのが特徴で、リアルタイムに発話内容を翻訳表示できるようになっている。また、多くの言語をカバーするだけでなく、多言語の音声認識ツールで見過ごされがちな、地域ごとの発音違いにも対応している。英語については 6 地域の発音に対応している。外国語翻訳者が必要なグローバル会議など外国語対応できるメンバーのみに限定されてしまう場面などに有効という。

WorkStyleRecorder、WorkStyleRecorder Plus 共に無料トライアルも用意している。

■ Spir : Web 会議の日程調整を簡単にするカレンダープラットフォーム「Spir」β版の利用登録を開始

(5月25日)

株式会社 Spir (<https://www.spirinc.com/about>) (東京都渋谷区) は、「Google Meet」や「Zoom」などの Web 会議の日程調整を簡単にするカレンダープラットフォーム「Spir (スピア)」のβ版の利用登録を5月25日より開始する。



カレンダープラットフォーム Spir (Spir)

Spir は、「リモートワークの日程調整を簡単に」と

いうコンセプトのもと、ビジネスで利用している複数の Google カレンダーと連携し、Google Meet や Zoom などの Web 会議の日程調整からカレンダーへの登録までをワンストップで行うことができるプラットフォーム。

同僚などとの打ち合わせを行う際に、自分自身やチームメンバーの予定をカレンダーで確認しながら最短わずか数クリックで Web 会議の日程調整や URL 共有が可能になる。

Spir では、カレンダーの予定を見ながら候補日を選択したり、条件を入れることで自動的に空き時間を抽出して、都合の合わない時間を微調整することもできるようになっている。そして候補日を URL で共有するだけで、調整相手も Spir を利用していればカレンダーを見ながら候補日を確定でき、その確定した予定はそれぞれのカレンダーに登録される形。あとは Web 会議の開催も自動で発行される URL をクリックするだけで Web 会議を開始することができる。

なお、複数の日程調整を同時におこなっていても、先に確定した日程が他の候補日と重複している場合は自動的に重複を防止する仕組みになっているためダブルブッキングの心配はないという。

Spir は、「創造性を解放する」というミッションを掲げ、2019 年 3 月に設立。日程調整カレンダープラットフォームの Spir は、DX（デジタルトランスフォーメーション）が進展する中で、ビジネスパーソンへの創造性の解放のための重要な位置づけのサービスという。今後もユーザに価値を提供するべく、ミッションと合致した事業展開を行っていくとしている。

■ロジックファクトリー：オンラインストレージサービス「firestorage」のインフラを活用した、インストールなど不要なビデオ会議・チャット・ファイル転送の無料提供を開始

(PRTIMES：5 月 15 日)

オンラインストレージサービス「firestorage」を運営するロジックファクトリー株式会社 (<https://logicfactory.co.jp/>) (東京都目黒区) は、ビデオ通話機能「ビデオチャットチャンネルβ版」を 2020 年 5 月 12 日にリリースした。



ビデオチャットチャンネルβ版 (ロジックファクトリー)

ビデオチャットチャンネルβ版は、国産のサービス「firestorage ファイヤーストレージ」のインフラを活用して提供される。相手にアプリのインストールをしてもらうのは気が引ける、海外のサービスだとセキュリティが不安といった声に応える。友達とのビデオ通話やオフ会などプライベートな利用から、取引先や新規営業、個人の顧客とのビデオ会議といったビジネスで活用を想定している。

アカウント登録やアプリのインストールも不要で、URL を共有するだけで、最大 5 人とパソコンやスマホでビデオチャットが行える。一回の接続は 60 分で何回でも接続できる。URL にはセキュリティパスワードの設定が可能なので安心して利用できるようになっている。また、ビデオ通話を行いながら、チャットやファイル共有も 1 画面で行える。なおチャットについては

人数無制限となっている。

現在はβ版だが、法人企業で接続数を増やしてすぐ使いたい、あるいは、こんな機能が欲しいといった要望があれば問い合わせで欲しいとのこと。今後有料会員向け・法人向けの機能を開発し、順次リリースしていくとしている。

■ネオラボ：オンライン健康相談・オンライン診療サービスのプラットフォーム「Calling for Telemedicine」β版の提供開始、今夏の製品版へ向けて開発進む

(5月15日)

株式会社ネオラボ (<https://neo-lab.co.jp/>) (東京都新宿区)は、オンライン健康相談・オンライン診療サービスのプラットフォーム「Calling for Telemedicine」β版の提供開始を5月22日より予定していると発表。製品版リリースは今年の夏を予定。



ログイン画面

予約画面

予約確認画面

予約完了画面

診察予約ページ (ネオラボ)

Calling for Telemedicine は、オンライン健康相談・オンライン診療を行うために必要な「予約・本人確認・事前問診・診察・決済・処方箋発行」を一気通貫で実施できるツール。

新型コロナウイルス感染の疑いがある患者でも、専用アプリを通じて、安心して健康相談や診察を行うことが可能。また、オンラインの事前問診やチャットでの質問も可能なため、診察時間を短縮することがdける。さらには、複数人での同時参加もでき、患者の家族も遠隔で診療内容を把握することが可能となっ

ている。



メッセージ一覧画面

メッセージ詳細画面

チャット画面 (ネオラボ)



診察詳細画面

診療画面

診療画面 (ネオラボ)

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、Calling を、「Calling for Medical」として医療法人と医療従事者向けに2020年3月11日からサービス提供を実施し、多くの病院やクリニックに導入実績がある。

多くの導入施設からさまざまなフィードバックがあり、今回の予約からオンライン診療そして決済までをワンストップで行うことができる Calling for Telemedicine のサービスリリースに至った。自宅でオンライン診療を可能にするこのサービスにより、衣料従事者や二次感染のリスクにより診療をためらう患者の不安を少しでも解消できればと同社では考えている。

また、サービス提供に先駆けて、合同会社 MASAI Medical (大阪府大阪市)が5月15日より受付を開始する、オンライン診療とPCR検査サービスの「MedLab-メドラボ-」にも Calling for Telemedicine の導入が決まっている。このほかβ版ながらもすでにクリニックへの導入が40社ほど決まっており、全国のクリニックに提供範囲が広がる予定という。

5月22日のβ版リリースをもとに導入が決まって

いる多くの病院やクリニックから実際のリアルな声を基に今年の夏の製品版リリースに向けて開発を進めている。

なお、Calling for Telemedicine は、4月10日、厚生労働省が公表した、「新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱い」についてのガイドラインに準拠しているという。

※厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱い」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000620995.pdf>

ビジネス動向-国内

■GMO グローバルサイン:企業向けシングルサインオンサービス「トラスト・ログイン by GMO」が Zoom と Webex と連携

(5月19日)

GMO グローバルサイン株式会社 (<https://jp.globalsign.com/>) (東京都渋谷区) が提供する企業向けシングルサインオンサービス(IDaaS)「トラスト・ログイン by GMO」は、5月19日より、Zoom Video Communications 社が提供する Web 会議システム「Zoom」と、シスコシステムズ合同会社が提供する Web 会議サービス「Cisco Webex Meetings」との連携を開始する。

テレワークが浸透している背景に、企業においてはテレワーク環境のセキュリティ対策が急務となっており、実際に GMO グローバルサイン社に寄せられるテレワーク関連の問い合わせ件数は昨年と同じ時期と比べて増加しているという。そういったことから、この度 Zoom と Cisco Webex との連携を開始することになった。

GMO グローバルサインが提供するトラスト・ロギ

ンは、社内システムや外部クラウドサービスの業務利用における、シングルサインオン、ID 管理、ログレポート機能といった基本機能を、サービス数・アカウント数の制限なく無料で利用できる、企業向けシングルサインオンサービス。

特長は、連携している各種サービスのシングルサインオンが可能となる仕組み「SAML 認証」に対応している。そのため、ID・パスワードごとの発行・管理が不要で、パスワードを狙ったサイバー攻撃により被害のリスクを抑え、強固な認証を実現している。また、トラスト・ログイン自体への不正アクセスを防ぐため、多要素認証(二段階認証)をオプションとして提供している。これは、ID・パスワードによる認証に加えて、都度生成される文字列(ワンタイムパスワード)の入力、あるいはクライアント証明書がインストールされた端末からのアクセスが必要なため、多層的なセキュリティの強化を実現する。

一方、企業はトラスト・ログインを導入することで、サービスごとにID・パスワードを入力する従業員(ユーザ)の手間を省ける上、ユーザごとのID・パスワード管理や各サービスの利用状況を確認するといったシステム担当者の煩雑な業務負担を軽減できるとしている。

なお、トラスト・ログインはこれまでに約5,500アプリケーションに対応しており、同社サイトには、5,000社以上が導入しているという。

■オープンクラウド:アルバイト情報サイトと Web 面接の連携でマイナビとの資本業務提携契約の締結、マイナビおよびみずほキャピタルに対する第三者割当増資を実施

(5月22日)

株式会社オープンクラウド (<https://opencloud.co.jp/>) (東京都渋谷区) は、株式会社マイナビ (<https://www.mynavi.jp/>) (東京都千代田区) との間で、マイナビが展開するアルバイト情報

サイト「マイナビバイト」とオープンクラウドが開発・提供する録画型 Web 面接システム「ApplyNow(アプライナウ)」(<https://biz.applynow.jp/>)との連携や新しいビジネスモデル構築にあたって資本業務提携契約を締結する。

また、これに伴いマイナビおよび成長支援第3号投資事業有限責任組合（東京都千代田区、みずほキャピタル）に対する第三者割当により発行される新株式発行を実行する。

連携することで、ApplyNow 導入企業はマイナビバイトから応募者に応募段階で録画型 Web 面接を行うことができ、従来の採用フローである求職者との面接日設定や面接時間の確保などの採用工数を削減することが可能だ。一方、求職者はマイナビバイトから録画動画を活用して応募をすることができるため、選考書類の作成、面接時間の確保が不要になる。選考フローが短縮することで求職者はより早く就業することも可能になる。

新型コロナウイルス感染症の拡大ならびにテレワーク導入企業の増加にともない、録画型 Web 面接システムのニーズはますます高まると両社は見る。今後、マイナビ協力のもと ApplyNow の全国的なサービス拡販が見込まれ、また中長期的にはマイナビへの OEM 商品の提供も行っていく予定という。マイナビ協力による ApplyNow 全国拡販は5月下旬から、また機能のシステム連携は今秋に実装される予定となっている。

オープンクラウドは2010年に設立。“スマート選考”という新たな選考手法を提供することで求職者の選考負担軽減を実現し、また人材募集企業は応募率の向上と採用プロセス全体の効率化・最適化を実現させることを目指している。

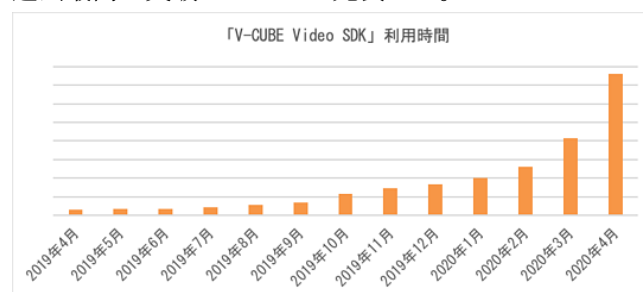
一方、マイナビは多様な事業領域でユーザの日常・人生をサポートする総合情報サービス企業。主力事業である人材ビジネスにおいて就職や転職、アルバイトなどを中心とした情報サービスや人材紹介事業を展開。

加えて、進学、ウエディング、ニュース、農業など多数の生活情報メディアも運営している。

■バイキューブ：バイキューブの「V-CUBE Video SDK」が過去最高の利用時間を突破

(5月26日)

株式会社バイキューブ(<https://jp.vcube.com/>)（東京都港区）は、ライブ配信・ビデオ通話・音声通話 SDK（ソフトウェア開発キット）「V-CUBE Video SDK」の月間利用時間が昨年同時期と比較し 26 倍に増加し、過去最高を突破したことを発表した。



V-CUBE Video SDK 利用時間 (バイキューブ)

V-CUBE Video SDK は、自社アプリや Web サイトに、ビデオ通話やライブ配信機能を簡単に組み込み、ユーザと新たなコミュニケーションを実現するサービス。

新型コロナウイルスによって生じたビジネススタイルやライフスタイルの大きな変化により、自社サービスを映像コミュニケーションによりオンライン化させることで、新たな顧客価値提供を開始する企業が増えているという。

英会話や面接、フィットネス、アーティスト・俳優のファン交流イベント、マッチングサービス、婚活イベント、ゲーム中のボイスチャットや実況配信など幅広いシーンで導入が進んでおり、実際に2020年4月の月間利用時間は、昨対比で26倍の伸びを達成した。With コロナ時代に向けてさまざまな企業が V-CUBE Video SDK を活用した新たなソリューションの提供を行い、ユーザ利用が増加、この流れが今後も加速していくと見込んでいる。

V-CUBE SDK のラインナップとして、バイキューブ

は、金融機関などへの提供を中心としたオンプレミスも可能な「vcube.io」の提供や、2017年より agora 社（米国）と日本国内での「agora.io」サービス展開における独占契約を締結し、大企業からベンチャー企業まで多数の企業への導入・運用をサポートしている。

agora.io を採用している主なサービス（一部）としては、（1）Chatwork 株式会社が提供している、Chatwork ビデオ通話「Chatwork Live」機能、（2）SOELU 株式会社のオンラインフィットネスサービス「SOELU」、（3）株式会社ベストティーチャーのオンライン英会話「BestTalk」、（4）株式会社 WithLIVE が提供している、アーティストと1対1ライブトーク、オンライン握手会、コラボ配信のできる「WithLIVE」などがある。

agora.io は、WebRTC や HLS などの従来の技術よりも低遅延・大規模な映像・音声配信に強みを持つ SDK で、短時間で簡単に組み込み、カスタマイズすることが可能。アプリケーションの開発期間とコストを最小限に抑えながら、簡易に開発できるようになっている。また、ブイキューブが国内シェア 13 年連続 NO.1 の映像コミュニケーションサービスを提供しつ続ける中で培ったノウハウを活用した技術サポート体制を基に、顧客が安心して開発できる環境を提供している。サービスとサポートの両面が評価され、利用拡大につながっていると同社では考えている。

ビジネス動向-海外

■Zoom 社：エンドツーエンド暗号化の強化のため Keybase 社の買収を発表

（5月7日）

Zoom 社 (<https://zoom.us/>)（米国・カリフォルニア州）は、エンドツーエンド暗号化の強化のため、Keybase 社 (<https://keybase.io/>)（米国・ニューヨーク州：crunchbase 情報）を買収したと発表。

Keybase 社は、公開鍵基盤（Public key

infrastructure)をめぐると課題を解決する目的で 2014 年に設立され、高度な暗号化とセキュリティの専門知識を活用して安全なメッセージングとファイル共有サービスを構築している。

Zoom 社にとって Keybase 社の買収は、ビデオ通信プラットフォームのセキュリティをさらに強化するための、現在同社が取り組んでいる 90 日間プランの重要なステップのひとつ。Keybase 社の経験豊富なチームはこのミッションの重要な部分となるようだ。

Keybase 社の Web サイトによると、Zoom 社のこれまでの成功は Zoom ビデオ会議の幅広い用途をサポートするその柔軟性にあると見ている。その柔軟性を備えながら、このミッションでは、数億人の参加者に対応できる真にプライベートなビデオ通信プラットフォームの実現を達成する考え。

そこで重要になるのは、Zoom 社によると、ユーザーのニーズとビデオ会議中に起こる有害な動作の防止に対する取組みとのバランスを取りながら、あらゆるユースケースで可能な限りプライバシーを提供するところになるという。

なお、Zoom 社は、セキュリティ強化を実現していく際に透明性とオープン性を維持すると同社ブログで明言しており、その中でエンドツーエンドの暗号化については、5月22日に、専門家やユーザーなど幅広く意見を求めるため GitHub 上に 25 ページも渡るドラフトを公開している。今回の適用は「Zoom Meetings」に対するもので、「Zoom Chat」「Zoom Phone」「Zoom Video Webinars」は今後対応予定と 5月27日のブログ（90-Day Security Plan Progress Report: May 27）にて説明している。

*E2E Encryption for Zoom meetings（GitHub 上）

https://github.com/zoom/zoom-e2e-whitepaper/blob/master/zoom_e2e.pdf

■Zoom 社：フェニックスとピッツバーグの 2カ所に研究開発センター開設、最大 500 人のソフトウェアエンジニア採用へ、地域 経済の活性化にも寄与

(5月14日)

Zoom 社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州)は、新しい研究開発センターをアリゾナ州フェニックス地域とペンシルベニア州ピッツバーグの2カ所に開設することを発表した。

新しい研究開発センターは、現在サンノゼ本社にある R&D 部門と製品開発部門を強化するものになる。開設場所はこの報道発表日時点ではまだ最終決定していないが、アリゾナ州立大学とカーネギーメロン大学近辺の立地を検討している状況だ。

しかし、同社としては、早々にこれらの地域でのソフトウェアエンジニアの人材採用を始める。2つの都市で、地元大学の卒業生などから最大 500 人を採用予定だ。ただし、センター開設の準備が整い、コロナウイルスが収束するころ(今秋を見込んでいる)までは、在宅勤務となるようだ。

これらの都市への研究センター開設にあたって、Zoom 社はグレーターフェニックス経済評議会やピッツバーグ地域同盟といった地域の経済団体と協力している。アリゾナ州立大学は、優秀な学生の就業機会や地域経済の活性化にも寄与すると期待を見せる。

■Zoom 社：Webex やシスコ、VMware など で経験がある Velchamy Sankarlingam 氏 がエンジニアリング&製品事業部門のプレ ジデントに就任

(5月26日)

Zoom 社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州)は、Velchamy Sankarlingam 氏が6月12日付けでエンジニアリング&製品事業部門のプレジデント

として入社すると発表。

Velchamy Sankarlingam 氏は、Zoom 社のエンジニアリング・製品・開発チームを統括し、CEO である Eric S. YUAN 氏へ直接報告する立場になる。なお、Zoom 社は、フェニックスとピッツバーグに研究開発センターを開設しエンジニアリングチームを最大500名増員する発表も行っている。

同氏は、Zoom 社に入社する前は、9年間 VMware 社で勤務し、直近では、クラウドサービス開発および運用担当上級副社長を務めた。また、その前は、シスコシステムズ社で同社のエンジニアリングおよび運用担当副社長を務め Webex (シスコが買収)のエンジニアリングおよび運用を担当していた。その前では Presenter.com 社 (Webex が買収)で副社長、また IBM アンダーセンコンサルティング (現在はアクセンチュア)での勤務経験もある。フェイススキンの Bellus3D のボードメンバーでもある。Yuan 氏は Sankarlingam 氏とは長年の付き合いがあるようだ。

導入利用動向-国内

■PGF 生命：提携金融機関販売担当者向けに Web 会議システムを活用したコンサル ティング研修を開始

(5月18日)

プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命 (<http://www.pgf-life.co.jp/>) (東京都千代田区、PGF 生命)は、5月18日より、提携金融機関の販売担当者向けに、Web 会議システムを活用した非対面の研修を開始したことを発表。

同社では、顧客のニーズに沿ったコンサルティングを推進するため、提携金融機関で保険の提案を行う販売担当者向けに、数多くの研修を実施してきた。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面での研修は自粛しているが、販売担当者が引き続き新たな保証を

必要としている顧客に対して質の高いコンサルティングが行えるように新たに Web 会議システムを活用した非対面での研修を開始した。

この Web 会議システムを活用した研修では、販売担当者は、自宅など受講場所を問わずに、研修予定表の中から自分が受けた研修を選択し受講することができ、限られた時間を有効的に利用しながら、コンサルティングを体系的に学ぶことができるようになっている。

同社では、今後も、提携金融機関の販売担当者が、顧客のニーズに合った提案が行えるよう、社会環境の変化に対応した研修方法およびコンテンツの開発とサポート体制の強化に取り組んでいくとしている。

■ネオラボ：延岡市、国産 Web 会議システム

「Calling」を導入、九州エリアの自治体への導入は初

(PRTIMES:5月28日)

株式会社ネオラボ (<https://neo-lab.co.jp/>) (東京都新宿区) は、国産の Web 会議システム「Calling」を延岡市 (宮崎県延岡市) に6月1日から提供を開始すると発表。

新型コロナウイルス感染症対策の一環で、通常対面で行っている庁内会議や、庁外で行われる取引先との会議などが普段通り行えない状況になっており、延岡市でもそれらの事態を解決するべくオンライン会議ツールの検討を進めていたところ、国産の Web 会議でありながら、セキュリティ面を重視した国際標準の通話技術を用いて構築している点や費用対効果などを評価し、ネオラボの Calling を導入した。

当面は、Calling を事業者との協議などに活用していきながらノウハウを蓄積し、今後、市民からの相談事業や職員採用などの始め、さまざまな場面で活用できるよう積極的に検討していくとしている。

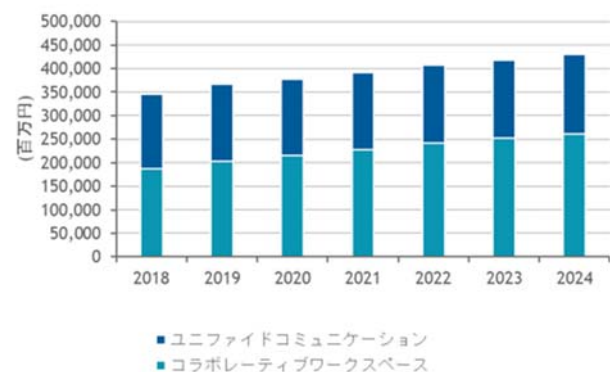
市場動向-国内

■IDC Japan：国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーティブワークスペース市場予測を発表

(5月19日)

IT 専門調査会社 IDC Japan 株式会社 (<https://www.idc.com/jp>) (東京都千代田区) は、国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーティブワークスペース市場予測を発表した。

2019年の国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーティブワークスペース市場は、前年比成長率が6.0%、市場規模(売上額ベース)が3,667億3,200万円であった。



グラフ：国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーティブワークスペース市場予測 2020年～2024年 (IDC Japan)

企業での働き方改革の進行、予定されていた東京オリンピック・パラリンピックのインバウンド需要増などの要因によって、企業音声基盤/コンタクトセンターの大型リプレイス案件などがあり堅調に推移した。

一方、2020年は、新型コロナウイルス感染症の流行による影響で、一部の市場セグメントでマイナス成長になると予測するため、一時的に成長が鈍化するとIDC Japanでは予測している。

しかし、2021年以降は在宅勤務需要の増加などによって、コラボレーティブワークスペース市場を中心に堅調に成長すると予測している。なお、2019年～

2024年の年間平均成長率(CAGR)は3.2%で推移し、2024年には4,299億2,900万円になるとIDCではよそくしている。

今回の発表は、IDCが発行した「国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーティブワークスペース市場予測、2020年～2024年」にその詳細が報告されている。本調査レポートは、国内ユニファイドコミュニケーション(UC)/コラボレーティブワークスペース市場の2019年の実績と2020年～2024年の市場予測を提供している。問い合わせおよび購入については同社サイトへ。

サービス等無償提供発表企業

コロナウイルスの影響からテレワークや在宅勤務を行う企業などが増えています。そういった企業などを支援する目的で遠隔会議・ユニファイドコミュニケーション提供会社がサービスなど無償提供を行う動きがとくに2、3月に入ってから活発になっています。

ここでは、CNAレポート・ジャパンが3月15日現在(その後3月31日も追加しています)把握した、無償提供もしくは機能拡張などのプレスリリースを行った提供会社の名前とURL(ホームページもしくは当該ページ)を掲載します。各社期間限定となっています。詳細は各社ホームページまたは直接お問い合わせください。皆様のご参考になればと思います。(順不同)

- 経産省(学びを止めない未来の教室、Zoom教育関係)：
https://www.learning-innovation.go.jp/covid_19/zoom/
- ライフサイズ社(クラウドサービス)
<https://pages.get.lifesize.com/remote-work-with-lifesize/>
- インタビューメーカー(Web面接)
<https://interview-maker.jp/>
- ドコモシステムズ(Web会議sMeeting)
<https://ddreams.docomo-sys.co.jp/smeeting/>
- RSUPPORT(Web会議RemoteMeetingなど)
<https://www.rsupport.com/ja-jp/>

- DialPad(クラウドPBX)
<https://www.dialpad.co.jp/>
- アバー・インフォメーション(デモ機など無償貸出し)
<https://jp.aver.com/>
- ブイキューブ(V-CUBE ミーティング、営業、教育、医療機関など)
<https://jp.vcube.com/>
- ベルフェイス(営業特化Web会議)
<https://bell-face.com/>
- プリンストン(クラウド会議サービスBlueJeans)
<https://www.princeton.co.jp/news/2020/03/202003101100.html>
- AloTクラウド(Web会議)
<https://www.aiotcloud.co.jp/>
- ポリグロットリンク(遠隔通訳サービス、学校向け)
<https://polyglot-link.co.jp/>
- ギンガシステム(LoopGate for PC/Tablet)
<https://ginga-sys.jp/>
- シスコシステムズ(Web会議Webex)
https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/solutions/collaboration/webex_90days.html
- ネオキャリア(Web会議Calling)
<https://www.calling.fun/>
- meet in(Web会議ミーティング、教育向け)
<https://meet-in.jp/>
- マルジュ(Web面接SOKUMEN)
<https://www.maru.jp/sokumen/>
- トラストバンク(自治体専用チャットLoGo)
<https://www.trustbank.co.jp/>
- ビジョン(ビジネス向けSNSツールJANDI)
<https://vws-biz.com/jandi/>
- StarLeaf/メディアプラス
<https://www.starleaf.jp/>
- 日本アバイア(Avaya Spaces、教育機関・非営利)
(在宅コンタクトセンター)
<https://www.avaya.com/jp/>
- シャープマーケティング(TeleOffice)
<https://www.ideep.com/>
- DMM英会話(Bellbirdビデオ通話サービス)
<https://eikaiwa.dmm.com/app/meeting>
- Vonage(Vonage Free Conferencing)
<https://freeconferencing.vonage.com/>

■ロゼッタ（遠隔会議上音声翻訳ツール）

<https://www.iukkou.com/lp/onvaku.html>

■ニューロネット（Web 会議 SaasBoard）

<https://www.neuronet.co.jp/>

*5月31日現在で無償提供を終了しているところもあるかもしれません。個別にご確認ください。

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（5月～7月）

「いまさら聞けない Web 会議とテレビ会議の違い 選び方徹底解説セミナー」、「オフィスの「会議室足りない問題」に。スマートワークブース「テレキューブ」体験会」、「テレワーク環境をスムーズに整える秘訣とは？～安心してテレワークするための IT ツールガイド～」 など
会場：（Web セミナー）

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記で閲覧できます。

<http://www.cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2020年5月31日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp